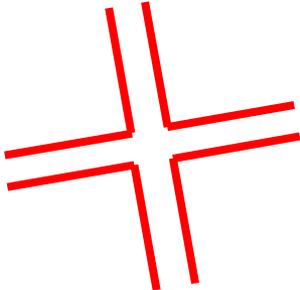
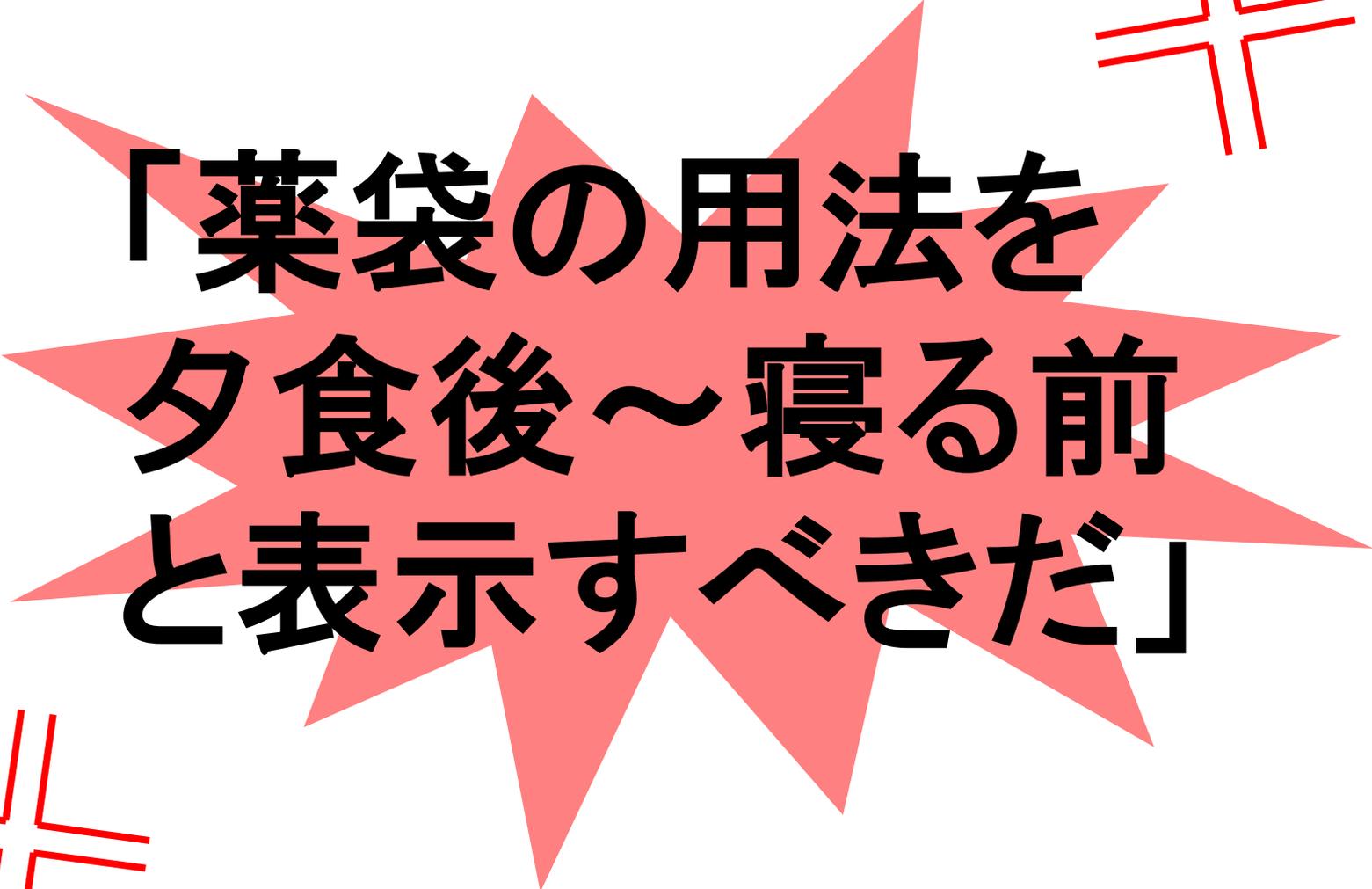
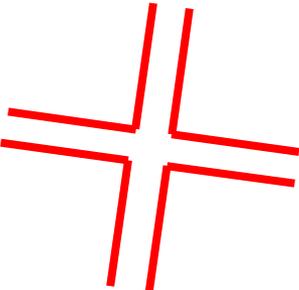


# 目的

「夕食後に飲み忘れた時は、寝る前までに飲めばいいと教えてくれなかったから、何日も薬を飲めなかった」



**「薬袋の用法を  
夕食後～寝る前  
と表示すべきだ」**



と、夕食後に高脂血症治療薬を服用している患者から苦情が寄せられた。

そこで他の患者にどの程度飲み忘れがあるのか、また飲み忘れた時どのように対処しているのか調査した。

# 方法

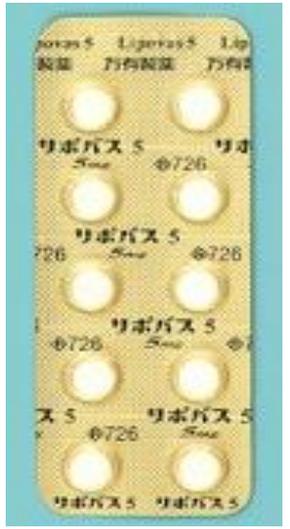
調査期間：平成20年2月の1ヶ月間。

対象患者：夕食後に服用する薬剤が  
右の高脂血症治療薬（当院  
採用薬）のみの外来患者。

クレストール® ベザトール® メバロチン® リバロ®



リピディル® リピトール® リポバス® ローコール®



## 調査内容:

現在処方されている高脂血症治療薬の飲み忘れの有無、また飲み忘れがある患者には対処方法を、薬局の窓口にて口頭で尋ねた。

# 結果

136人の患者に調査した。内訳は男性35名、女性101名で男女比は男性26%、女性74%であった。

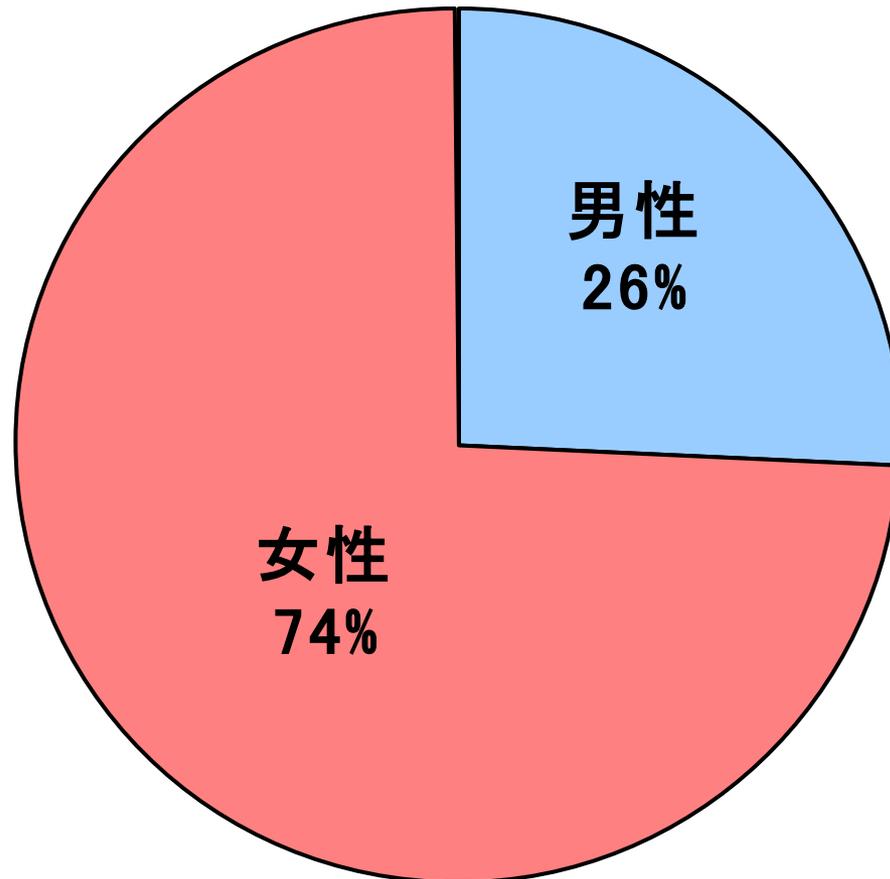


図1. 調査した患者の男女比

調査した患者の約56%に飲み忘れがあった。

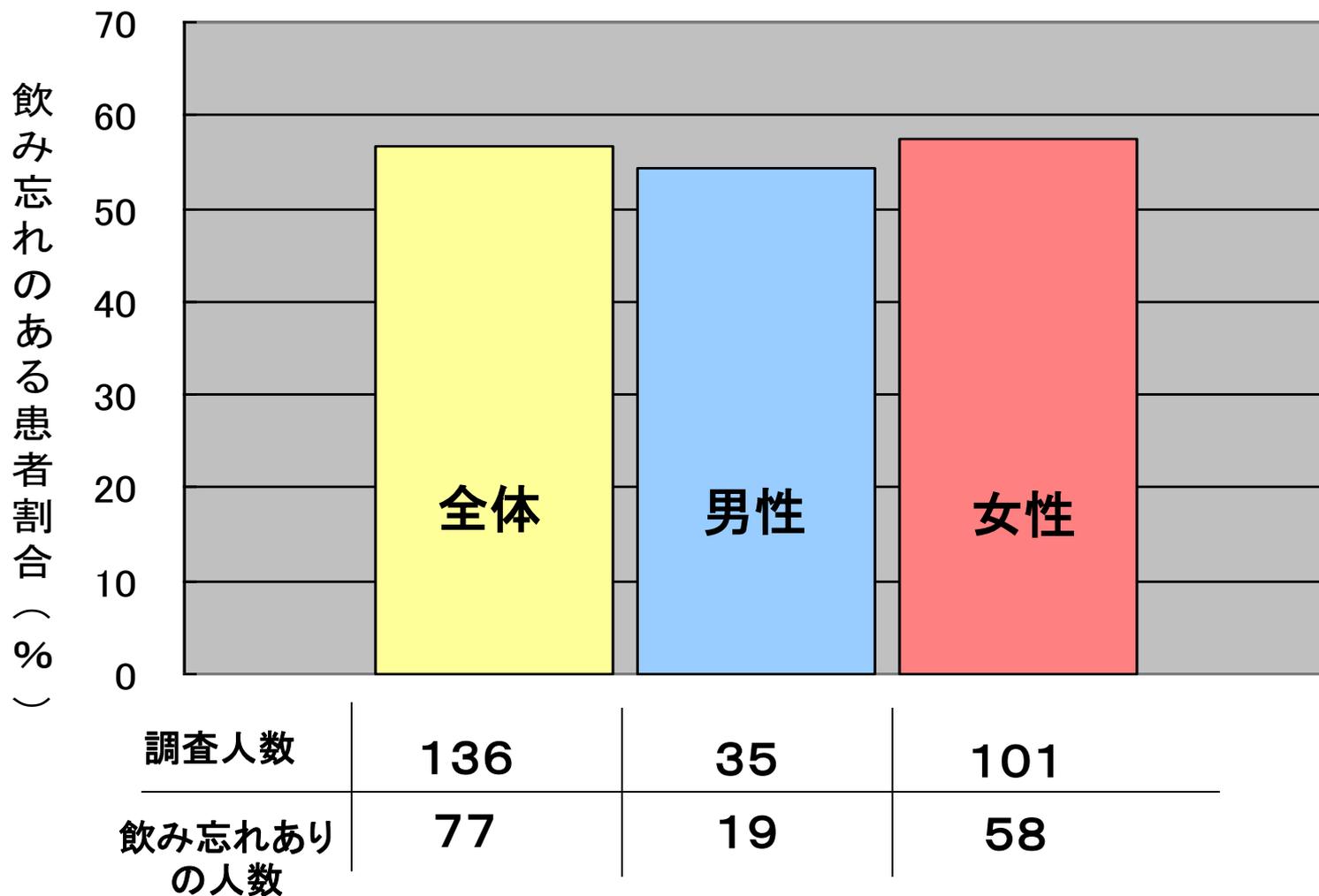


図2. 性別ごとにみた飲み忘れの割合

調査した患者の年齢の内訳は以下の図のようになった。

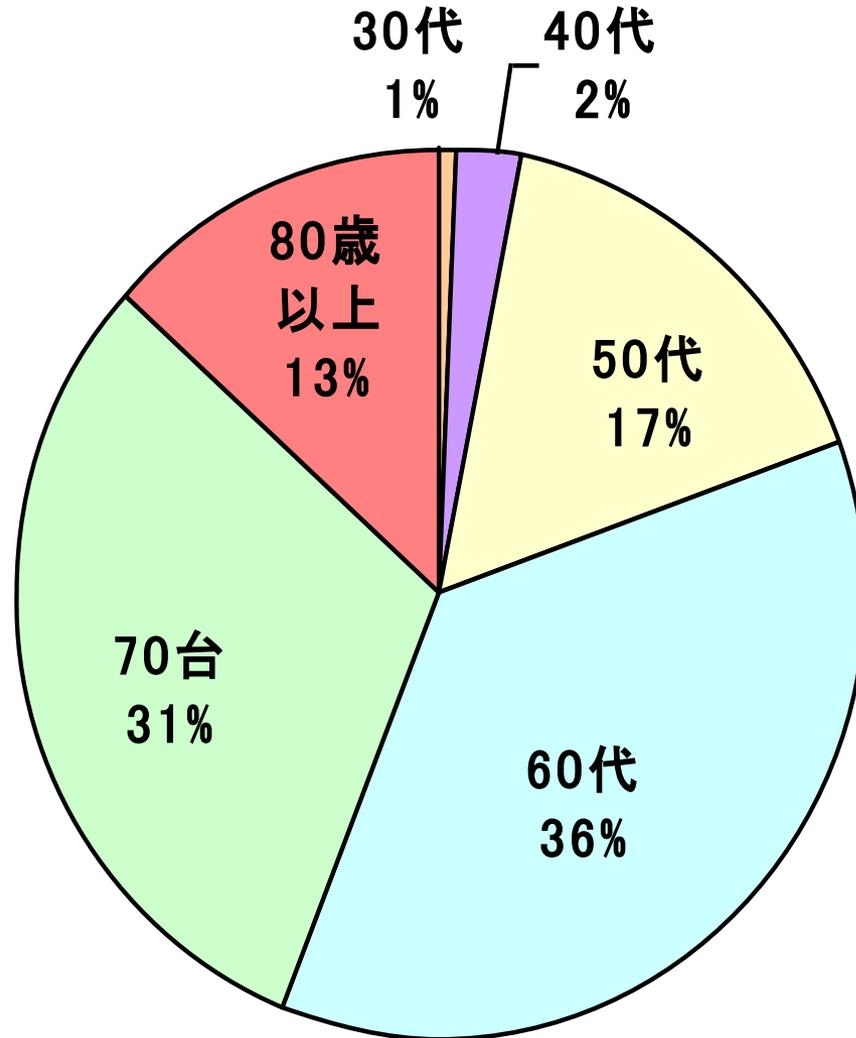


図3. 調査した患者の年齢別割合

30代は1名、40代は3名と患者数が少ないため、飲み忘れのある患者の割合については50歳以上の患者について下の図に示す。今回の調査では60代で飲み忘れが多く見られた。

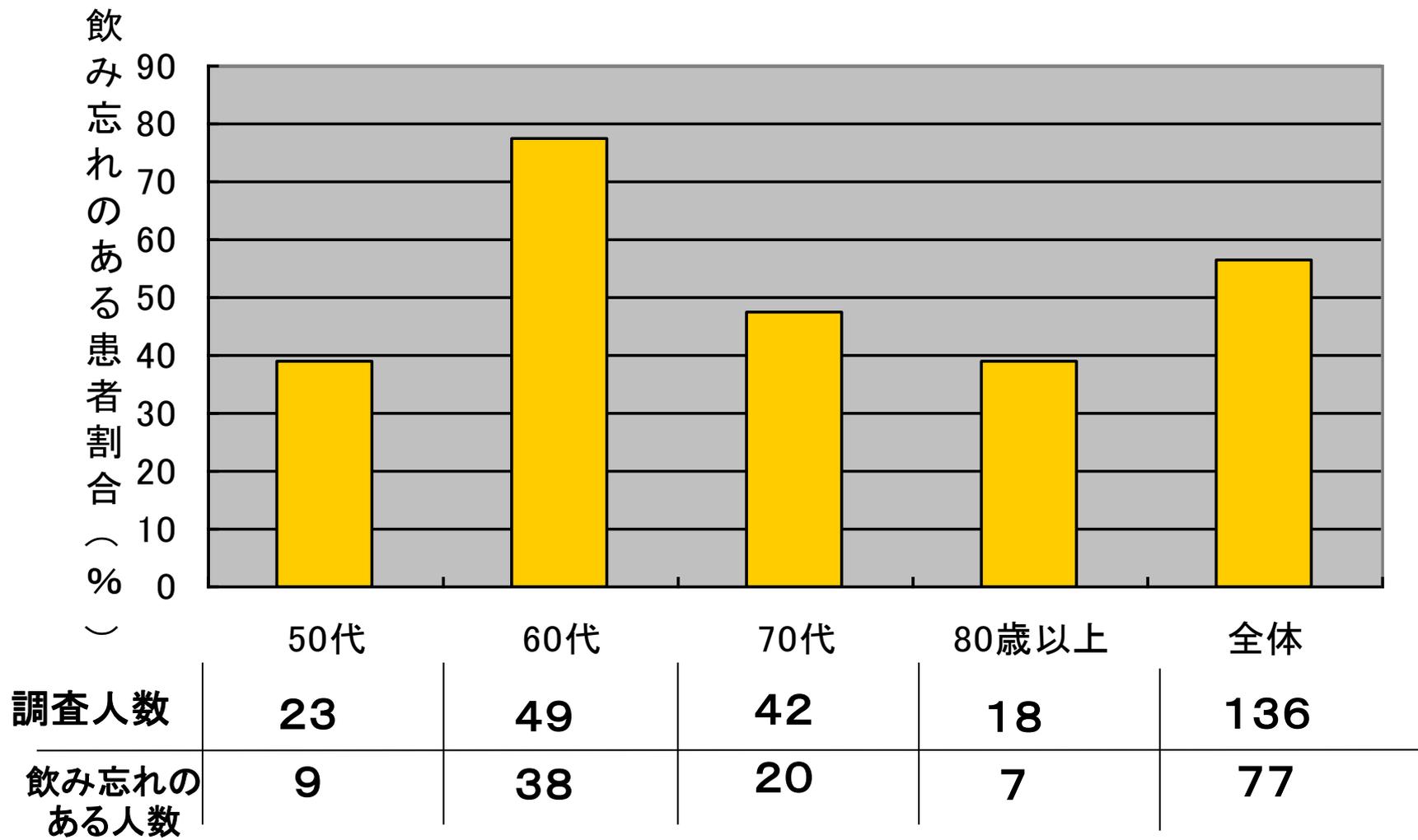


図4. 年齢別にみた患者の飲み忘れのある人数と割合

飲み忘れることがある患者の、約70%の方が「1回分抜かして飲まない」、約14%が「寝るまでの気付いた時に服用する」、約15%が「翌日の朝食後に服用する」という回答を得た。

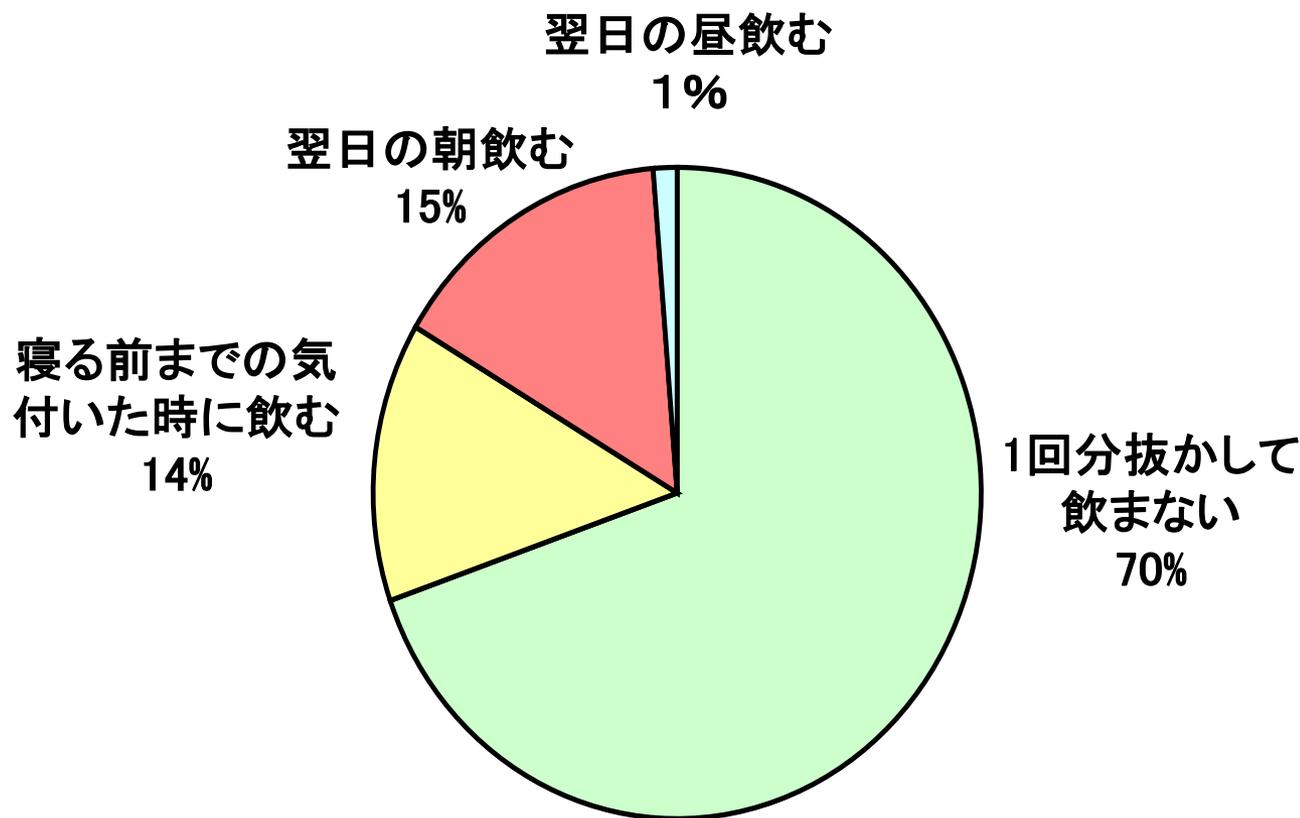


図5. 飲み忘れ時の対処方法の割合(全体)

飲み忘れたときの対処法については男女間にあまり違いはなかった。

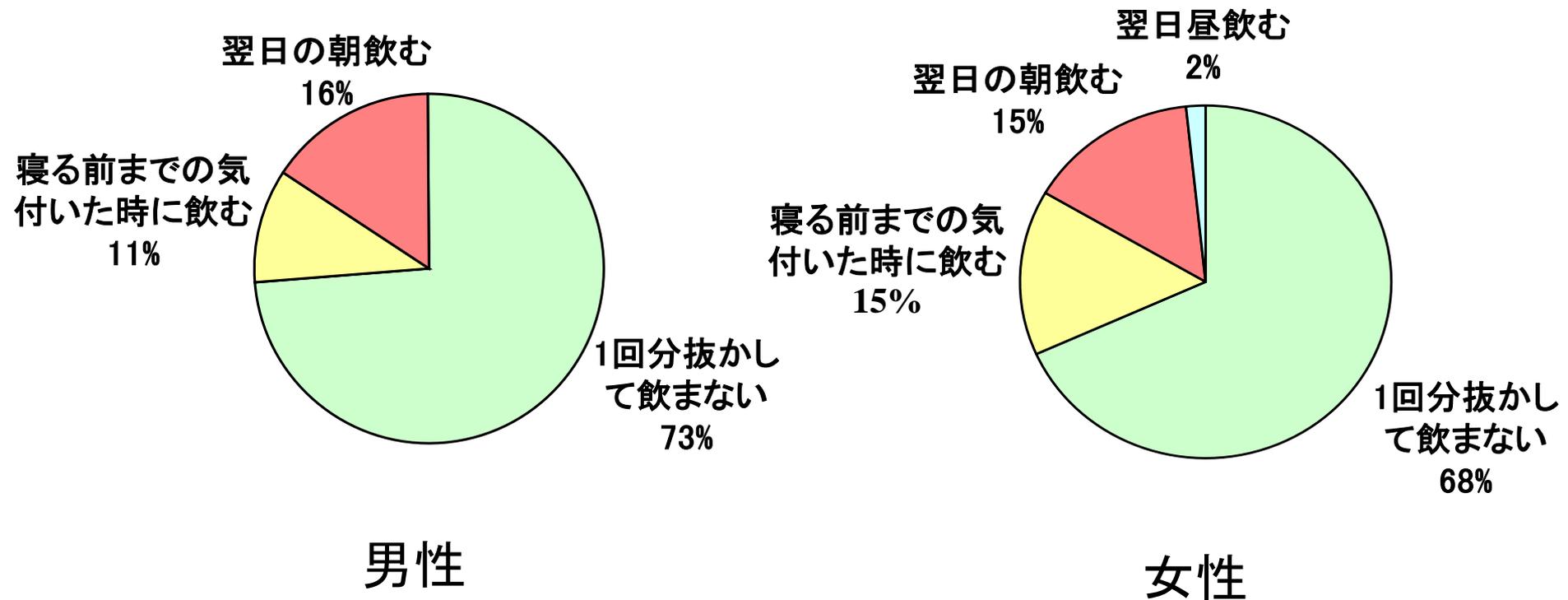


図6. 性別ごとの飲み忘れ時の対処方法の割合(男女別) ⑫

30代、40代は患者数が少ないため、飲み忘れた時の対処法の割合については50歳以上の患者について下の図に示す。どの年代においても「1回分抜かす」患者の割合が半数を超えた。

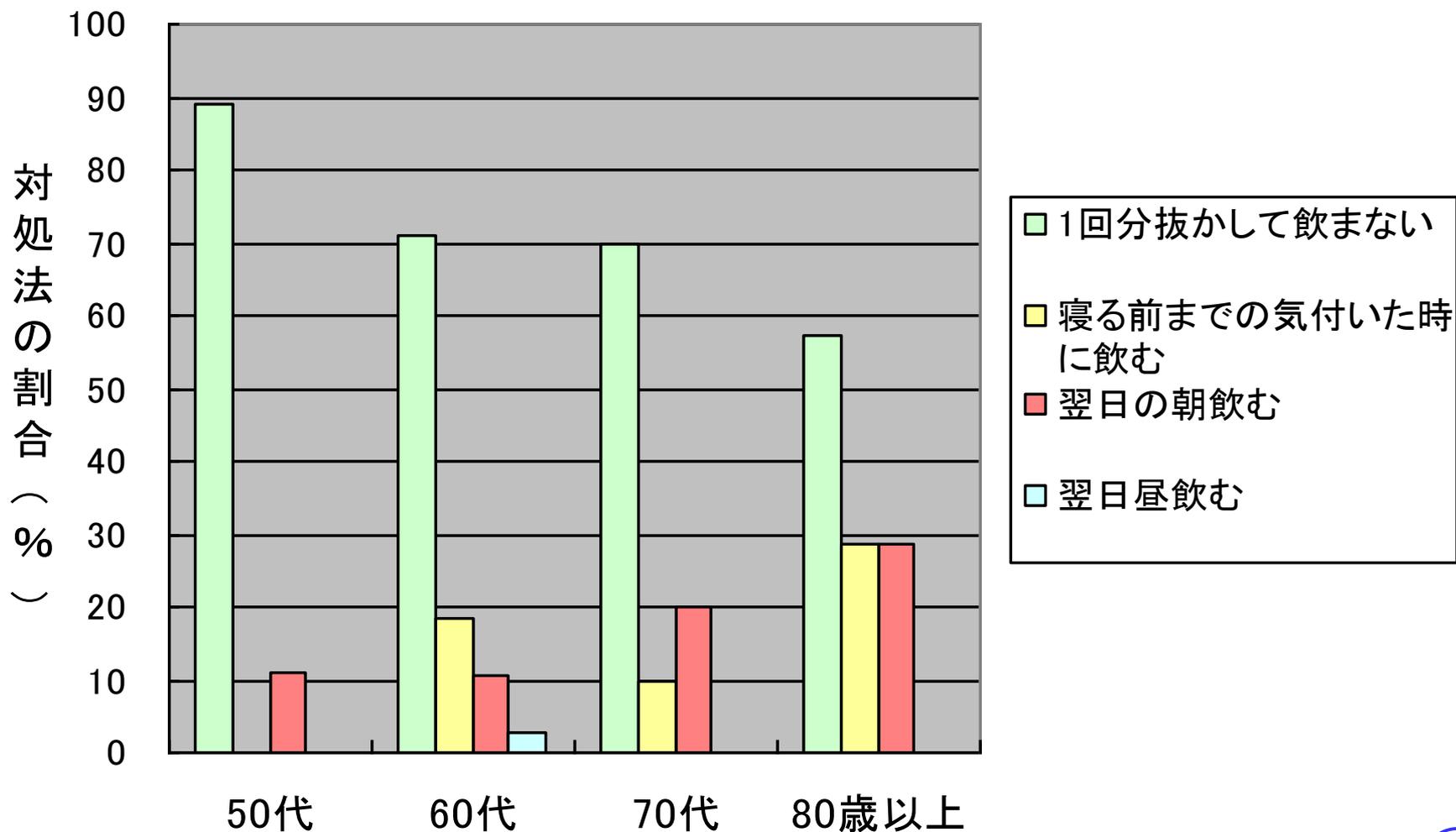


図7. 年齢別での対処法

# 考察

夕食後に服用する高脂血症治療薬を飲み忘れることがある患者は約半数以上いて、飲み忘れのある患者の多くは、1回分服用していないことがわかった。

「1回分抜かして飲まない」患者に、飲み忘れたときの対処方法について指導することで、アドヒアランスの向上が考えられる。

対処例) 夕食後に飲み忘れた場合には、寝る前までの気付いた時に服用してもらおう。

メーカー回答では・・・就寝前までに気付いた場合には速やかに服用。翌日の朝気付いた場合は朝食後までなら服用してもよい。

# 結語

初めて処方された患者に飲み忘れた時の対処方法を説明する。

また、他の患者や、他施設を受診している患者にはお薬手帳等を活用し、残薬の数、なぜ飲み忘れたのかの理由を確認し、飲み忘れた時の対処方法を伝えることで、飲み忘れが減らせるようにしていきたい。

今回の調査結果を今後の日常業務に活かしていきたいと思う。